

### (3)いざというときに備える

災害に強く、安心して暮らせる地域にするため、以下の取組を進めます。

#### ①効率的・効果的な道路防災対策の推進

- 依然として災害に脆弱な道路が多数存在する東部地域において、災害への対応力を強化する観点から、道路の防災・減災対策及び老朽化対策を効率的・効果的に進めます。

#### ②土砂災害対策の推進と山地災害の予防と復旧

- 一瞬にして、尊い人命や貴重な財産を奪うなど、甚大な被害をもたらす土砂災害を防止するため、砂防、地すべり対策及び掛け崩れ対策を進めます。
- 山地災害から安全で安心な暮らしを守る山崩れ対策を進めます。

#### ③河道整備

- 河道の適切な流下能力を確保し、洪水による災害に対する安全性の向上を図るため、宇陀川、町並川等の整備を推進します。

#### ④災害に強い森林づくり

- 森林の持つ水源涵養や国土保全といった機能を維持、増進するため、適切な森林の整備、保全に取り組みます。

#### ⑤災害に強い情報ネットワークづくり

- 災害時においても情報通信が途絶しないよう、情報ネットワークを強化するための基盤整備を進めます。

#### ⑥地震に強い地域づくり

- 地震災害による建築物の倒壊を未然に防ぎ、住民の生命、身体及び財産を守るために、既存木造住宅の耐震化に取り組みます。

#### ⑦エネルギーの確保

- 緊急時に備えた自立・分散型エネルギーの普及に取り組みます。
- エネルギーの地産地消を目指し、地域振興にもつながる多様な再生可能エネルギー等の普及拡大に取り組みます。

#### ⑧防災力向上と紀伊半島大水害の次世代への継承

- 改正災害対策基本法や奈良県地域防災計画の見直し等を踏まえ、市村が行う地域防災計画の見直しを支援します。
- 「公助」だけでなく「自助」「共助」も連携して高めることが重要であることから、自主防災組織の結成促進や活性化を図るなど、地域防災力の底上げを目指します。
- 紀伊半島大水害から学んだ貴重な教訓を次世代に継承していくため、防災教育や、シンポジウムの開催など県民への周知、啓発を推進します。

#### ⑨紀伊半島大水害の復旧の完了

- 紀伊半島大水害により被災したインフラの復旧を引き続き推進します。

### (4) 移り住んでもらう

現役世代（アクティブシニアを含む）を中心に、都市部から東部地域への移住を検討する方々に、地域の魅力を感じてもらい、実際に移住してもらうため、以下の取組を進めます。

#### ①二地域居住・移住を受け入れる仕組みづくり

- ・移住ホームページの充実と、移住者のライフスタイルにスポットをあてたパンフレットの発行により、東部地域の魅力を発信します。
- ・都市部での移住セミナーを開催し、東部地域に移住してもらうためのきっかけを作ります。
- ・県と市町村のワンストップ窓口機能を強化するとともに、奈良まほろば館等に移住コンシェルジュを設置して移住希望者の相談に対応します。
- ・県と市町村による「奥大和移住・定住連携協議会」を設立して、地域協働による移住促進の取組を進めます。
- ・地域住民を対象として、移住情報や地域の魅力を発信するジャーナルを発行します。
- ・地域における移住者の受入体制の構築が重要なことから、集落単位での「地域受入協議会」の設置を支援します。
- ・移住体験ツアーや古民家DIYイベントを開催するとともに、移住希望者が地域の暮らしを体験できるトライアルステイを促進します。

#### ②二地域居住・移住を受け入れる拠点整備

- ・地域の状況に合わせた拠点づくりのモデルプランを策定し、二地域居住・移住に向けた特色のある施設の整備につなげます。
- ・空き家や廃校等を活用して、移住体験住宅や移住者支援住宅など地域で気軽にトライアルステイできる施設の整備や、チャレンジショップ、シェアオフィス、工房など、地域で働くために必要な施設整備を促進します。

#### ③移住者の働く場の確保

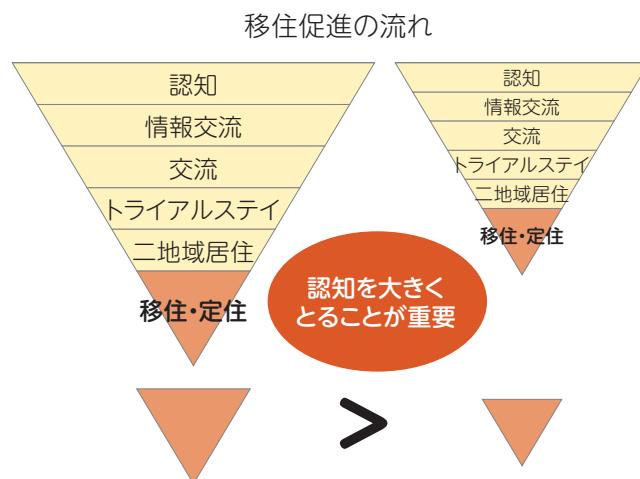
- ・後継者や求人を募集している地域の伝統産業や事業所、商店、旅館・民宿、ガソリンスタンド等と、地域で働きたい移住希望者とのマッチングを進めます。
- ・農家民宿の開業支援、農林業に係る技術・知識修得のための研修など、就業への支援を行います。
- ・「地域おこし協力隊制度」等を活用して、地域活性化に意欲のある都市住民の移住を進めます。

クラインガルテン曾爾(曾爾村)



図11:移住施策の進め方とターゲットの設定

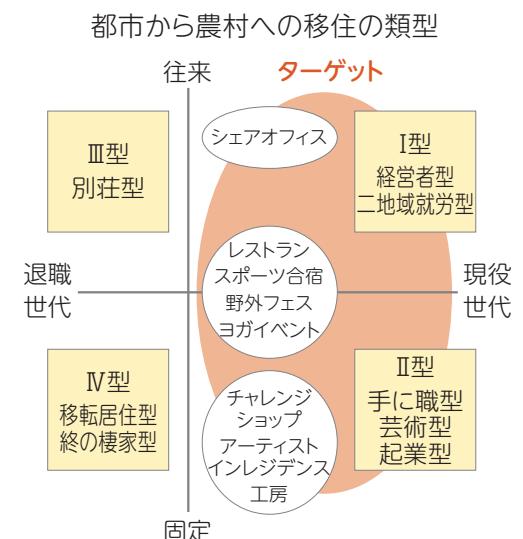
○移住施策の進め方



認知を大きくすることが、移住・定住につながる

認知の何割かが情報交流に移行し、情報交流の何割かが交流の段階となる。そして交流の何割かが二地域居住となり、最終的に二地域居住の何割かが移住・定住の行動をとる。

○ターゲットの設定



現役世代(アクティブシニアを含む)への重点化  
類型ごとに異なるニーズへの対応

【出典】牧瀬 稔「都市から農村へ移住を促すヒント」を一部改変

取り組んでいます



### 奥大和クリエイティブヴィレッジ構想

- ・都市部にいなくても地方で仕事ができる「デザイナー」「家具職人」「芸術家」など、職種を絞って、南部東部地域への移住を促進する取組です。
- ・宇陀市菟田野では、廃校を活用した、アーティスト・イン・レジデンス※の拠点整備が進められています。

※アーティスト・イン・レジデンス：アーティストや職人を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながら作品制作を行ってもらうこと



活動拠点のイメージ図

### 山添村かすがガーデン

- ・旧春日保育園を活用した地域交流拠点施設において、農作業や調理体験など毎月楽しいイベントを開催しています。
- ・この活動により、移住希望者等が直接地域を訪れて、地域住民との交流体験が進んでいます。



かすがガーデンでの交流活動



奈良県 地域振興部 南部東部振興課

〒634-0003 檜原市常盤町605-5 奈良県樅原総合庁舎3階  
[TEL] 0744-48-3015 [FAX] 0744-48-3135 [E-mail] nanbu@office.pref.nara.lg.jp  
[URL] <http://www.pref.nara.jp/1638.htm>

